

経・緯度観測に匹敵する精度の極運動が求められている。さらに月レーザー測距望遠鏡の実現、超長基線波干渉計 (VLBI) の開発によって、極運動観測は新しい時代を迎えようとしている。これら新三種の測器のうち、VLBI は恒星位置の観測も可能でその精度向上は最も期待されるものである。ロチェスターの報告の中で、地球自転の諸現象の観測機としてつねに VLBI が顔を出しているのも無理はない。

観測精度の向上によって、これまでの器械では測定できなかったような現象がみつければ、また新しい理論を誘発するであろう。いっぽう精度の向上は観測期間の短縮につながる。位置天文学の現象の多くは、一つの結果を出すために数十年の観測を必要とする。もし新三種の測器の精度が光学的な方法に比べて10倍もよくなれば、30年かかったのが3年で済むことになる。

位置天文学が若い研究者にあまり好まれない傾向があるのは、研究目的が古典的であることと、それにもまして自分の観測がすぐ使えず長く単調な観測を続けなければならない点である。これからは、新しい器械の開発や精度の向上が意欲をそそる問題であり、かつ新しい現象の発見とその理論的研究も起ってくる。

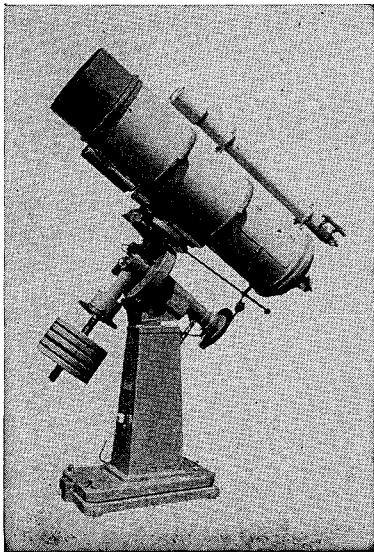
極運動が発見されてすでに90年に近い。極運動観測のような国際的な共同観測事業は、天文学の中で匹敵するものがない。しかしそれで何がわかったかという問に対しては、正直なところ、近似的な解答が得られていると書くことすら後めたいた気がする。厳密な答を求めることは原理的に不可能だとしても、せめて過去90年の観測事実の80%を説明できる理論がほしい。90年の謎を解いてみせようという、野心に燃えた研究者の出現を期待したい。

学会だより

東京天文台の一般公開

東京天文台の一般公開 (本会后援) が11月14日(金)

に行われる予定です。台内諸施設の公開は午後2時から午後4時30分まで、月面観望は午後7時30分まで行われます。天候の都合により観望終了時刻を繰り上げることがあります。なお、雨天の際には中止され、また当日参観を目的の自動車の構内乗入れは禁止されます。



天体望遠鏡
ドーム、製作

西村製の天体望遠鏡

40 cm 反射望遠鏡の納入先

- | | |
|--------|---------------------|
| No. 1 | 富山市立天文台 |
| No. 2 | 仙台市立天文台 |
| No. 3 | 東京大学 |
| No. 4 | ハーバート大学 (USA) |
| No. 5 | ハーバート大学 (USA) |
| No. 6 | 台北天文台 (TAIWAN) |
| No. 7 | 北イリノイズ大学 (USA) |
| No. 8 | サン・ジェゴ大学 (USA) |
| No. 9 | 聖アンドリウス大学 (ENGLAND) |
| No. 10 | 新潟大学高田分校 |
| No. 11 | ソウル大学 (KOREA) |
| No. 12 | 愛知教育大学(刈谷) |

606 京都市左京区吉田二本松町 27

株式会社 西村製作所

TEL. (075) 771-1570
691-9580